

『脂肪乳剤は三大栄養素、生体の健全な代謝のために もっと積極的に使うべきです！ ルーチンに！』

今年の8月は異常に暑い、そう表現していいでしょう。暑いより、熱いという表現が正しいと思います。天気は晴れの時、「いい天気」と言いますが、これは、正しい表現ではないですね。夏の晴れの日には「暑すぎる」「熱すぎる」のだから、絶対に「いい天気」ではありません。日本語自体を変更しないといけないと思います。私、木曜日と金曜日は東宝塚さとう病院で午前中、外来診療をしてから大学へ戻るのですが、車に乗って温度計を見ると 40℃くらい。ハンドルも熱い。エアコンをかけて運転して大学へ戻り、着いてドアを開けると、外は空気が熱い。熱風！この気温はどういうこと？沖縄や小笠原より暑い・熱い、のですから。しかし、よく考えると去年も暑かった。一昨年も、その前の年も……。地球温暖化！

大学は、8月2日に臨床栄養学Ⅱの前期試験を終えて、夏休みに入りました。9月中旬までの夏休みです。私はもちろん、いつものように大学の研究室でいろいろ仕事をしています。誰とも話をすることなく、一人で。

8月3日と4日、滋賀県草津市の医療研修施設ニプロiMEPで第6回 Medical Nutritionist セミナーを開催しました。2日間、びっしりと静脈栄養・経腸栄養についての講義。クレジットなどの参加特典はないので、参加者は純粋に勉強したいと考えている方ばかりで、143名。開始時刻に遅れてくる人も居眠りしている人もいない。いろんな学会やセミナー開催を運営している方が、こんなセミナーは知らないと言っていました。資格を取る、維持するためのセミナーとは受講する姿勢が違う。私は結構、疲れました。しゃべり疲れ。1日目は6時間以上しゃべりましたから。しかし、夕方の懇親会も楽しい時間だったので、疲れも吹っ飛びました。2日目は、しゃべった時間は2時間ほどだったので気楽でした。いろいろな方と話もできて、本当に充実したセミナーだったと思います。終わってから、写真を選別するのが大変でした。全員の顔を知っているのではないので、名札と照らし合わせながら選んで、送りました。喜んでくれたかな？私が一人ひとりに写真を送っているなんて、知らない人がほとんどだと思います。それなのです。

私、なんと、70歳になりました。70歳です。還暦になった時とはちょっと違う感覚です。70歳の記念に甲子園球場へ行き、第106回高校野球甲子園大会の開会式を見ました。暑い日でした。中学、高校はプラスバンドでトランペットを吹いていて、高校野球の応援にも行っていたので、入場行進が始まった時のプラスバンドの演奏には涙が出そうになりました。感動！開会式が終わったらすぐに大学へ戻りましたが、外野席で試合を観戦していたら熱中症になったと思います。70歳の高齢者がやることではありません。しかし、1歳下の江川卓氏の始球式を見られなかった！残念！



↑千里金蘭大学の栄養学部も参加した、カレーグランプリです。シーフードカレーです。レトルトを14個、買いました。しかし、エビ、入っている？部屋で食べたらエビがいなかった、見つからなかった？岡邑先生、梅本先生が引率？監督？で来ておられました。私の知り合いも協力してくれたので、今回は優勝？

8月8日午後4時43分、宮崎県日向灘を震源として最大震度6弱の地震がありました。政府は、初めて「南海トラフ地震臨時情報」として1週間は巨大地震が発生する可能性が高まったと発表。海水浴場が閉鎖になったり、お祭りが中止になったり、新幹線も減速運転をするなど、いろいろな対応が行われました。観光地も大変だったとのこと。翌日には神奈川県西部でマグニチュード5.3の地震があり、これも南海トラフ地震の前兆？実際には南海トラフ地震の範囲内ではないとのことでしたが、心配。結局、1週間後にはこの地震警戒情報は解除になったのですが、大地震はいつ発生するかわからないので、注意しなければなりません。

8月11日は、千里金蘭大学のオープンキャンパス。何回目？結構、がんばりました。何人もの親御さんに、当大学の栄養学部の良さ、すばらしさを解説しました。生徒さんだけのイベントの時、付き添ってきた親御さんが暇？なので、私が講義的な話をしました。かなり真剣にスライドを作ったのですが、まあ、時間つぶし。10時に始まって15時までなので、結構大変です。授業体験などもあります。栄養学部の教官は大勢でがんばっています。今回はキッチンカーが出店。参加してくれた生徒・親御さん用なので、足りなくなったらいけない、だから大学関係者はオープンキャンパスが終わってから、と言われていたのですが、キッチンカーに行って、お店の方と話をすると十分な量を用意しています、ぜひ食べてくださいとのこと。**断るのも申し訳ない**と思って食べました。大学の関係者、学生達に白い目で見られながら、食べました。結構、うまかった。

8月17日と18日は愛媛へ帰省。墓掃除。前回、車がパンクして大変だったのですが、今回は、トラブルなく、ゆっくり運転できました。特別なことは無し。天気が良くて？よかったです。暑かった！昼飯には宇和島の鯛めしを食べました。晩飯は海鮮料理、翌日の昼飯は香川県のうどんを食べました。いろいろ愛媛土産を買いました。今回は、愛媛の柑橘のグミ、坊ちゃんだんご、母恵夢のイチジク味、などでした。

8月23日は、土塚阪急百貨店でカレーグランプリ。千里金蘭大学が出店しているので、もちろん、レトルトカレーを買いに行きました。昨年も1万円分のレトルトカレーを買ったので、今年も。今年は単価が安かったので、レトルトカレーが14個。昼飯は、しばらくは毎日カレーです。売っていた千里金蘭大学の学生達は喜んでくれましたが、2年生なので知りません。まだ講義をしていないので、でも、ちょっと知っています。このカレーグランプリ用のカレーを試食させてもらったから。その時、カレーを食べさせてもらったお礼にアイスクリームを買って、お礼を言ってもらったのですが……。一応、カレーをたくさん買ったら喜んでくれたので、「来年の臨床医学と臨床栄養学の講義は真面目に聴講しなさいよ！！」と言っておきましたが……。来年の講義の聴講態度……。カレーグランプリ効果は期待できるでしょうか。



↑8月11日のオープンキャンパス。オープニングでは福高学長が大学の説明をしていました。こんなにすばらしい大学ですよ！という感じ。気合を入れて、職員、学生一丸となって入学者が増えるように勧誘しなければなりません。女子大がどんどん共学に変わってきている中で、千里金蘭大学は女子大としてがんばらなくてはなりませんから。



↑オープンキャンパスのキッチンカー。左のポテト、500円。これは高いんじゃない？真ん中のハンバーグは、うまかった、500円。右のマラサダドーナツは甘かった！当たり前ですが、大学が配ってくれる食券はタダでしたが、私、このキッチンカーで食べたので1300円でした。まあ、オープンキャンパスというお祭り？だから。かき氷もありましたが、私、かき氷は苦手です。頭痛が痛いの。



↑愛媛の柑橘もいろいろ加工されています。左上の甘平のゼリーは、感動しませんでした。右の「せとか」と「紅まどんな」のグミは、前回買ってきた時に結構評判がよかったので、今回も買ってきました。どっちがうまい？

定番の愛媛みやげの「母恵夢ポエム」はいろいろな味のものがありますが、今回は「いちじく味」でした。イチジクらしい味だったそうです。新製品です。いろいろな味の母恵夢がありますが、私、ふつうの味の母恵夢以外、食べたことがありません。全部、お土産としてプレゼントしているので、坊ちゃんだんごも、もちろん定番です。坊ちゃん団子のほうが、私は好きです。

ゼン先生：8月の前半はパリオリンピック、8月7日からは甲子園高校野球、そしてお盆、8月って過ぎるのが速いですね。

小越先生：1月は行く、2月は逃げる、3月は去る、そして8月はやっぱり速いか？

ゼン先生：ちょっと違うと思いますが、何もしないうちに時間が過ぎていくような感じです。

小越先生：そういう意味では8月に限ったことじゃないだろう。

ゼン先生：まあそうです。

小越先生：オリンピックは盛り上がったんだろう？

ゼン先生：そうなんじゃないですか？日本はたくさんのメダルを取ったようです。

小越先生：君の中ではあまり盛り上がらなかったようだな。

ゼン先生：この歳ですから、冷静に見ていました。

小越先生：そうか。高校野球は？

ゼン先生：鳥根県代表の大社高校の活躍で盛り上がりましたが。

小越先生：え？君の中では甲子園の高校野球も盛り上がらなかったのか？

ゼン先生：まあ、そうですね。都会の私立高校ばかりが上の方へ上がるので、純粋さが失われつつあるんじゃないかと思ったり。純粋にがんばっているのはわかっているんですが。

小越先生：君も歳をとって感動することがなくなってきたんだろうよ。

ゼン先生：そうかもしれません。甲子園での開会式は感動しましたけど。

小越先生：そうかそうか。開会式に行ったんだったな。

ゼン先生：はい。70歳記念に行きました。開会式は初めてでした。これは感動しました。

小越先生：そうか、それはよかったじゃないか。

ゼン先生：はい。よかったです。

小越先生：8月は例年のように Medical Nutritionist セミナーを開催したんだろう？

ゼン先生：もう第6回です。今回の参加者は143名でした。

小越先生：そうか。ちょうどいい参加者数なんじゃないか？

ゼン先生：多ければ多いほどいいのではないですよ。運営上からは多いほうがいいんですが、ハンズオンセミナーを考えると、多すぎると余裕をもって指導することができませんから。

小越先生：IPエコーを使った静脈穿刺の実践だな。

ゼン先生：そうです。全員にIPエコーを使って模擬血管を穿刺してもらうんです。

小越先生：管理栄養士さんはそんな実技をする機会がないから、喜んだんじゃないか？

ゼン先生：そう思います。現場でどんなことをやっているのか、知っておくことは大事ですから。

小越先生：その通りだよ。

ゼン先生：今回は、日大の上原先生の教室から若手医師が



↑ セミナーは講師陣も気合が入っていました。フロアからの質問も厳しい。今回はいつもより質問が少なかったように思いました。もっといろいろな質問があってもよかったのですが、おとなしい？講師をしていただいた滋賀医科大学の管理栄養士、栗原さんの写真がないのです。すみません。いい写真がなかったのです。



↑ 懇親会では一人ひとりにコメントをいただきました。懇親会の最後に記念写真を撮りました。このiMEPのレストランの方に撮ってもらったのです。ふっつ、「はい、チーズ」の掛け声でパチリ、なんです、なんと、「行きまーす、笑え！」でした。みんな、笑っています。「はい、チーズ」より「行きまーす、笑え！」のほうがいい写真が撮れるのでは？今後、この方式で撮ってみてください。

4人、小川先生の高崎総合医療センターからも若手医師が6人、参加してくれました。上原先生、小川先生が行けと言ってくれたんだそうです。

小越先生：それはいい話だ。やっぱり医師が栄養の勉強をしてくれなくては、な。

ゼン先生：阪大の旧第一外科の北川先生は医療法人協和会の理事長なんですが、北川先生にセミナーの案内を送ったら、グループから10人の管理栄養士が参加してくれました。後日、参加した方々の感想も送っていただきました。

小越先生：それもいい話だ。少しずつ成果が上がっているということだな。

ゼン先生：そう思います。小さな活動なので、少しずつですが。

小越先生：続けることだ、可能な限り。

ゼン先生：本当にそうですね。可能な限り、です。

小越先生：全国的には臨床栄養は盛り上がっているのか？

ゼン先生：どうなのでしょう。雰囲気的に栄養は大事だと言いながら、適正な栄養管理はできていないように思っています。

小越先生：診療報酬上も評価されているんだろう？

ゼン先生：そうなんです、ちょっと違うように感じています。

小越先生：どういう意味なんだ？

ゼン先生：栄養管理の中身より、診療報酬としてお金がとれればよい、そういう風になっていると感じています。

小越先生：お金か。

ゼン先生：そうです。もちろん、医療経済は大事だと思います。最近は胃瘻の代わりにCVポートやPICCがたくさん使われるようになっていますが、管理は、おそらくいい加減だし、有効な静脈栄養を実施しようと考えているとは思えません。適正な栄養管理のためのCVポートやPICCとは思えないんです。

小越先生：君がそう感じているのなら、そうなんだろうが。

ゼン先生：実態はわかりません。本当は実態を調べたいんですが、実態調査はできませんね。

小越先生：ちゃんと管理していますか？いい加減な管理になっていませんか？適正な静脈栄養を実施していますか？そんなことは聞けないな。

ゼン先生：そうなんです。現場ではつらい思いをしている患者さんがたくさんいるはずですよ。

小越先生：つらい思いか。

ゼン先生：そうです。ちゃんとした栄養管理をしてもらえずにどんどんやせ細っていく。家族はそれに対してどうすることもできない。栄養管理について知識がある家族だったら、相当つらいと思います。そんな話は、何人からも聞いています。でも、どうすることもできないんですよ。

小越先生：そういう意味で、ちゃんとした栄養管理ができていないというんだな。



ゼン先生：はい。そういう患者さんが増えていると思います。

小越先生：そうか。なんとかしたいけどな。それを解決する手段は教育だけだが、適正な臨床栄養教育ができていないと君は

ずっと言っているよな。

ゼン先生：そうです。どうしようもありません。

小越先生：残念だ。しかし、今回も嘆き節のまま進めるのか？

ゼン先生：明るいネタですか。第6回の Medical Nutritionist セミナーにたくさんの人が参加してくれた、これが明るいネタでしょうか。

小越先生：確かに。それは明るいネタだ。

ゼン先生：嘆き節・・・今回は最後まで嘆き節でいいですか？

小越先生：君がそうしたいのなら、仕方ないが。どんな嘆きなんだ？

ゼン先生：やっぱり、脂肪乳剤です。

小越先生：脂肪乳剤か。やっぱり使われていないんだ。

ゼン先生：そうですね。7月末に外科代謝栄養学会がありまして、「シンポジウム4：脂肪乳剤投与の核心に迫る！脂肪製剤の未来は？」の特別発言をさせていただきました。

小越先生：特別発言か。君もずいぶん爺さんになったんだな、この領域で。

ゼン先生：こういう学会での特別発言って、本当、爺さん、お年寄りの役割だと思っていたのですが、自分に回ってきて、なんか、考えるところがありました。

小越先生：君も古希だろう？ある意味、当然の立場だよ。

ゼン先生：わかっているんです。でも、なんか、いやだなと思いました。

小越先生：しかたないよ。どんな話をしたんだ？

ゼン先生：発表者の主張が、イントラリポスは駄目、n-6系のリノール酸が主だから、炎症を引き起こす、肝障害をきたす、だったんです。

小越先生：最近、その手の意見が強いな。

ゼン先生：そうなんです。だから、イントラリポスではダメだ、n-3系の魚油から構成されているオメガベンを導入しなければならない、オリーブ油などが含まれている SMOFlipid を導入しなければならない、でした。

小越先生：イントラリポスについては、発表はなかったのか？

ゼン先生：日本では TPN 症例で脂肪乳剤があまり使われていない、重症症例で調べたけどイントラリポスが悪い結果をもたらすというデータはない、という発表もありました。

小越先生：なるほど。脂肪乳剤が使われていないというのは、例の、DPC のデータの解析だろう？東大の。

ゼン先生：そうです。統計というか、その領域でものすごく活躍している笹瀬先生の発表でした。すごい臨床疫学の研究をしておられます。でも、私、その発表を聞きながら感じたのですが、自分ではイントラリポスを使ったことがないんじゃないか、そう思いました。

小越先生：なるほど。そうかもしれないな。

ゼン先生：自治医大の安田先生はエビデンスとして脂肪乳剤は使わないほうがいいのか？でも、使わないほうがいいというエ



↑ ニプロ IP エコーを使った静脈穿刺のハンズオンセミナーです。管理栄養士さんも楽しそうに IP エコーを使っていました。実際に静脈や動脈を見たい、これも自然な興味ですね。IP エコーで血管を見せ合いっこしていました。高崎総合医療センターの研修医の〇〇くんは、机の上に寝て、自分の血管を提供していました。

ビデンスはない。群馬大学の立石先生の発表は、ICU 症例で脂

脂肪乳剤を投与した群としなかった群を比較して、脂肪乳剤を投与することによって状態を悪化させることはなかった、でした。

小越先生：イントラリポスがダメという発表ではなかったんだ。

ゼン先生：そうです。でも、このシンポジウム自体が、最初から、現在の脂肪乳剤は良くない、そういう考えから企画されているような感じがしましてね。

小越先生：そうなのか？そういう考えが正しいのか、正しくないのか、議論しようというのだろうか？

ゼン先生：そうかもしれませんが、昨年の JSPEN でしたね、脂肪乳剤は使わないほうがよい、という雰囲気薬剤師セッションがありました。

小越先生：あったな。君が怒りの発言をした、あれだな。

ゼン先生：そうです。脂肪乳剤が使われないのは、脂肪乳剤自体に問題があるからだ、そんな雰囲気での議論が行われています。なぜ、前向きに、もっと脂肪乳剤を使おう、というセッションを作らないんでしょうか。

小越先生：なるほど。前向きに議論するセッションか。

ゼン先生：そうです。発表者達は、いかにも脂肪乳剤はここに問題がある、だから、あまり使われないんだ、そういう雰囲気になっています。

小越先生：しかし、指摘されている問題を、完全に否定することはできないだろうか？

ゼン先生：発表者達もダメだというデータは持っていません。添付文書がこういう病態では禁忌や慎重投与になっているからです。

小越先生：その添付文書については、君がおかしいとずっと主張している。

ゼン先生：そうです。データは古いし、昔の、大量、急速投与の時の論文に基づいた添付文書です。同じ脂肪乳剤で構成されているプロボフォルの添付文書には、イントラリポスで記載されている禁忌や慎重投与の記載は全くないのに。

小越先生：そこが問題だとずっと主張しているが、どうしようもないのか？

ゼン先生：はっきり言うと、どうしようもありません。イントラリポスを販売している大塚製薬工場自体が、添付文書の記載通りにしないとダメ、と言っていますから。

小越先生：添付文書に従わないとダメ、なるほど。企業としての当然の考え方だ。

ゼン先生：そうです。でも、この添付文書を改定しないと、必要な症例に脂肪乳剤が投与されないという、ある意味、有害になると私は発言しています。

小越先生：しかし、大塚としては、そんなことを言われても、だろうか？

ゼン先生：そうなんです。どうしようもないんです。

小越先生：誰か、君以外に、もっと脂肪乳剤を使おうと言ってくれている人はいないのか？



↑ 70 歳になった記念に何かやりたい！私の誕生日は第 106 回、夏の高校野球甲子園大会の開会式。そりゃあ行かなくては！いい天気、いや、暑い・熱い天気でした。カンカン照り！熱中症にならないように気をつけました。開会式の入場行進です。一つひとつの代表校の行進、感動！かつて、高校時代、ブラスバンド、応援団に入っていたので、正直、特別な思いで見えました。
Seventy の爺さんが **seventeen** に戻ったような気持ち！

ゼン先生：PPN で脂肪乳剤はここまで投与できる、という発表をした、合志先生がいる、といえませんが。

小越先生：PPN でのイントラリポス投与か。

ゼン先生：そうですね。添付文書の記載量まで投与しても問題はない、でした。

小越先生：添付文書に沿った研究なんだ。

ゼン先生：そうです。添付文書は駄目だ、そういう話はいけません。脂肪乳剤を販売しているのは大塚だけです。脂肪乳剤に関する講演のスポンサーになってくれる企業はないでしょ

そうでもないようです。

小越先生：そうらしいな。オレもそういう話は聞いたことがある。

ゼン先生：イントラリポスの売上を上げるより、PPN 輸液のエネフリードに力を入れているようです。

小越先生：エネフリードか。イントラリポスよりもエネフリードだな。

ゼン先生：そうらしいです。

小越先生：だったら、この問題の解決策はないということだ。

ゼン先生：そうなりますね。

小越先生：仕方がない、あきらめよう。

ゼン先生：でも、諦めたら困る患者さんが増えますよ。

小越先生：しかし、打つ手がないんだろう？

ゼン先生：まあそうですけど。

小越先生：あきらめるのが一番だよ。そうしないと君の血圧が上がる。

ゼン先生：確かに、最近、血圧が高めです。

小越先生：精神的ストレスのためだ。基本的には臨床栄養教育の充実が必要なんだろう？ 静脈栄養はこういう風の実施するんだ、脂肪乳剤も投与するほうがいいんだ、こういう理論的根拠に基づいて、という教育をしなければならいんだよ。

ゼン先生：もちろんです。でも、そういう教育をする機会がありません。ちゃんと静脈栄養について講義をしている大学があるのでしょうか。

小越先生：医学部か？

ゼン先生：医学部で静脈栄養の講義をしている大学なんて、ないんじゃないですか？

小越先生：看護学部、薬学部・・・ないだろう。栄養学部は？

ゼン先生：ないでしょう。



第16回 静脈経腸栄養管理指導者協議会学術集会 開催概要

○日時：2024年9月21日(土)～22日(日)

○会場：プラザ萬象 小ホール(福井県敦賀市)

○当番会長：林泰生(杉田玄白記念公立小浜病院)



小越先生：やっているとしても、そんなに講義時間は使っていないだろう。

ゼン先生：脂肪乳剤について、時間をかけて講義している大学って、日本にいくつあるんでしょうか。

小越先生：1 大学だけじゃないか？ 君が教えている千里金蘭大学だけじゃないか？

ゼン先生：そうかもしれません。笑い話ですよ。

小越先生：本当、笑い話だ。

ゼン先生：笑い話では困るのですが。

小越先生：本当だ。教育、教育、教育だな。

【今回のまとめ】

1. 暑い・熱い夏です。いつまで暑い・熱い？8月末には台風10号がうろうろ。変な台風でした！
2. パリオリンピックが終わりました。第106回夏の高校野球甲子園大会が終わりました。どちらも盛り上がったようです。
3. 第6回 Medical Nutritionist セミナーは143名の参加者で、盛り上がりしました。いい勉強になったとの感想をたくさんいただきました。写真を送った方々、いい記念になったでしょう？
4. 70歳になりました。すでに爺さんですけど。記念に甲子園での開会式に行きました。感動！
5. 脂肪乳剤、もっと使いましょう。三大栄養素です。適正な代謝のために使う、当たり前だと思うのですよ。